

ポリプロピレン製シリンジを用いた T-PAS (予測-予防型の安全対策) の心理的效果 - 医療器具取り扱い体験研修を使った医療安全教育の開発 -

兵藤好美¹⁾, 田中共子²⁾, 上多弘志³⁾

- 1) 岡山大学大学院保健学研究科, 2) 岡山大学大学院社会文化科学研究科
3) テルモ株式会社 安全情報管理部

【目的】ヒューマンエラーの確率を減らす為の優先課題として、医療機器等のハードウェアに関する対策が注目されている。しかしながら、医療従事者が機器を正しく使用するための知識や方法について学ぶ機会は少なく、それらを文書化した添付文書が読まれることは希である。そこで医療機器に関するインシデント・アクシデント予測・予防研究の一環として、看護学生を対象とした安全対策研修を予備的に試行し、体験型研修の効果を探った。【方法】1. 対象：A大学看護学専攻4年生，11名。2. 時期：2010年3月，約90分。3. 内容：研修の趣旨・スケジュール等を説明後、実際にテルモ社の製シリンジを使用し外筒のひび割れやガスケットの損傷を体験。4. 測定(1)研修前・後に、医療安全のための意識およびシリンジに関する知識等35項目について、自己評価。(2)研修を通して学んだことに関する自由記述。5. 分析：平均とSD，対応のあるt検定。内容分析。6. 倫理的配慮に関する説明を行い、同意を得て実施。【結果】実験後には、安全意識に関する全評価項目が好転した。「誤った使用方法によるシリンジを、ポンプにセットするとサイフォニング現象が起こることを理解」「ガスケットの厚さを具体的に理解」「シリンジは使い方によって割れたり、ひびが入ることを知っている」等、シリンジの理解が高まり、「添付文書を読むことの重要性」の認知も増していた。研修に関するコメントでは、「図や実技を交えた研修内容でより理解が深まった」「今後は臨床で説明書をきちんと読み、分からないことをそのままにしないようにしたい」「何事も理解してから実施することが、医療安全につながる」等の記述が見られた。【考察】研修を通して、シリンジの取り扱い方法や留意点への理解が得られたことが示された。添付文書を読む重要性の認知が向上していたことから、今後の臨床の場において、その行動の実施確率が高まるものと期待される。今回の研修では、全員が実際にシリンジを使用したため、サイフォニング現象が確認できたり、常温では強靱なシリンジも低温下では容易に割れてしまうことが体験できたりして、現実的な理解をもたらしたと推察される。予測・予防型の安全対策(T-PAS)による体験型研修は、認知だけでなく行動、情動に渡るインパクトを持ち、教育的効果が大きい研修方法と考えられる。